

ギャラリー

Gallery

私の小説を書いています、本業は造園家です。造園家というと、「植木屋さんですか?」とよく聞かれます。デザインを重んじる「造園家」とは何か? を私の携わってきた主な仕事を通してお話したいと思います。神戸市総合福祉ゾーン「しあわせの村」を例にあげてお話ししますと、福祉ゾーンは福祉チームが、事業計画(事業費の確保)・全体計画・設計・工事施工などは公園チームが担当しました。公園チームは当時の呼び名でいうと、造園屋さん、土木屋さん、建築屋さん、設備屋さんで構成されました。環境アセスメント・事業費計画・全体計画・全体設計・建築を含めた村内施設デザイン基準(デザイン、色彩、ロゴ、ロゴマーク、サインなど)・施工計画・管理運営計画などすべて私を含めた造園チームの仕事でした。すなわち、造園家とは総合プロデューサーなのです。それは、「布引ハーブ園」でも同じですが、布引では計画の反対する市民団体との話し合いもすべて造園チームの仕事でした。しかし、「布引ハーブ園」は工事ルートが市民の生活道路1本しかなかったため、昼間は市民利用とし、夜間工事ばかりでしたが、真夏の夜の海からの風と街の灯りは心を爽やかにしてくれました。そんな多忙のなか、仕事ばかりではだめだ、と書き始めたのが売れない純文学の小説でした。

■野元 正の本



第4回小谷剛文学賞入賞
第10回神戸エルマル文学賞入賞

幻の池

埋めてなお埋まらぬ幻の池—人間の在処を描く—
現代の象徴

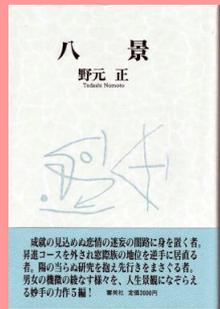
編集工房ノア刊



海の萌え立ち

ドロップアウト願望の男女の生態を捉えた問題作5編

審美社刊



八景

現代に生きる男女の機微があやなす様ざまな人間景観5編

審美社刊



第3回神戸エルマル文学賞受賞

飴色の窓

中年男の戸惑い。アメリカ国境青年の旅。未婚の母娘の葛藤。震災で娘を亡くした女性の前進など様ざまな彷徨を描く。

編集工房ノア刊



空のかけら

ビルの谷間の古い町の失われゆく空への愛憎。年神さんの時間の不思議。光る椎の灯火首の聖方など5編

編集工房ノア刊

■神戸市「花を巡る文学散歩」各区版(無料)

・執筆・監修



PROFILE

野元 正
Tadashi Nomoto

(芸術文化団体 半どんの会 代表)

のもと・ただし・東京生まれ・京都大学農学部林学科(造園学・環境デザイン)卒・小説家・造園家(wikipedia 小森正幹参照) / 技術士(建設部門:都市及び地方計画) / 測量士・元神戸市公園砂防部長・主な計画・設計—神戸「しあわせの村」「布引ハーブ園」「北野中公園」など・1995年小谷剛文学賞入賞・2005年北村賞受賞 / 2009年神戸エルマル文学賞受賞 / 2011年半どんの会文化賞(現代芸術賞) / 2014年明石市文化功労賞 / 2016年兵庫県文化功労賞受賞 / 2016年神戸市文化賞受賞・ホームページ:<https://nomotohanashikisai.site>